

前教授からの寄稿

薬学部設置10周年に寄せて

臨床薬物動態学講座 初代教授 岩本喜久生

このたび、愛知学院大学薬学部が設置10周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

私は、前任(鳥根大学医学部附属病院)を定年退職後の平成20年4月より25年3月末までの僅か5年間でありますが、臨床薬物動態学講座を担当させていただきました。着任初年度が第1期生(4年制)の最終年度であったため、最初の担当科目「臨床薬力学」の講義と試験を実務実習調整準備期間前の5月上旬までに終えねばなりませんでした。ダブルヘッダー授業日2回を含む集中講義であったため、私自身の準備はかなりハードでしたが、詰め込み授業を受けた学生諸君もさぞ大変だったと思います。その第1期卒業生たちは最初の薬剤師国家試験において合格率96%超の好成績をあげ、大変嬉しく思いました。しかし、6年制以降の国家試験成績が下降傾向を続けている状況は残念でなりません。

6年制薬学教育を担う私立大学教員として、モデル・コアカリキュラムに準拠する講義、実習、演習などの学生教育に最重点を置かねばならない責務を痛感し続けました。恐らく、他講座の先生方も同様に思われ、講座の上井講師、石丸助教も同様の責務を痛感しつつ、研究に対する時間的制約を余儀なくされたと思われ。そのような厳しい状況のなか、上井講師は主に薬物トランスポーター研究の面で新発見につながる業績をコツコツと蓄積しました。幾度となく、国内外学術雑誌への投稿論文原稿の読み合わせをさせていただいたことが懐かしく思い出されます。

教務関係では、平成21・22年度実務実習東海地区調整機構委員長、約3年間は主に早期体験学習対策チーム委員会、

OSCE小委員会、OSCE実施責任者などを担当させていただいた程度で十分には貢献できませんでした。この間ご協力いただいた委員会メンバーはじめ薬学部教職員の皆様に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。おかげさまで、23年度のOSCE本試験では受験生全員が合格しました。その時の安堵感と喜びは今でも覚えています。

さらに、平成22年度の医療薬学実習Ⅲに「バイタルサイン擬似測定によるフィジカルアセスメント」を新規導入し、医師教員の先生方のご指導、ご協力のもと薬学生への臨床技能教育に微力ながら参画することができました。今後、より高性能なシミュレーター装置などを整備され、薬学生に必要な臨床技能教育がさらに発展することを願っています。

最後になりましたが、在職中、単身赴任を理由にしばしば鳥根へ帰省し、薬学部および講座の皆様にご迷惑をかけたことをお詫び申し上げます。退職後は、週3日の午前を鳥根大学病院にてボランティア活動、週日の午後をプール・温泉施設にて心身の鍛錬とケア、週末を料理や庭いじりなどで過ごしながら年金生活を送っている近況をご報告し、寄稿文を閉じさせていただきます。